

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
「生理学分野におけるアジア発国際機関誌の確立」
（課題番号：252013）

学術団体名：一般社団法人 日本生理学会
学術刊行物の名称：The Journal of Physiological Sciences
事業期間：平成25年度～平成29年度

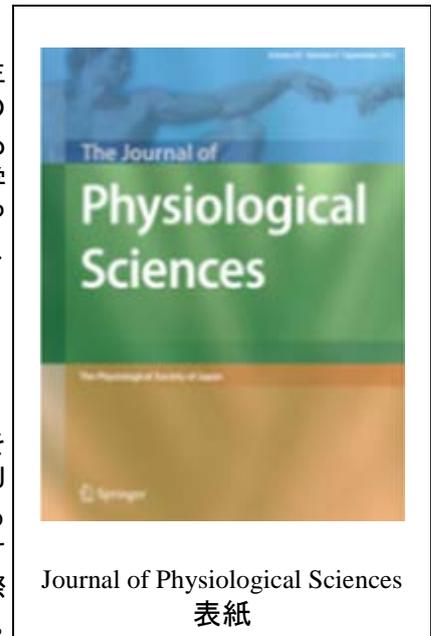
1. 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

「ノーベル生理学・医学賞」の名称に示されるように、生理学は生命現象・疾病の生物学的基盤の理解、予防と治療を目指す医学研究の主要な分野である。しかるに生理学雑誌の主要なものは欧米雑誌であり、アジア発の真の国際基幹誌はまだ確立されていない。日本生理学会の英文機関誌であるThe Journal of Physiological Sciences (JPS) の国際情報発信力を強化し、アジアの拠点としての地位を確立したい。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

応募時にも一部は著者負担で論文のオープンアクセス化を行ってきたが、限定的である。本計画により、論文のオープンアクセス化を支援し、制限なく新しい論文の閲覧が可能になる工夫を図る。またJPSのアジアにおける認知を高めるために、2015年にタイで開催されるアジア大洋州生理科学連合の第8回大会 (FAOPS2015) の抄録を掲載するなど、アジアの情報を世界に発信することに寄与する。同時に国際化に伴い、論文不正に対する取り組みを国際レベルで強化していく。



Journal of Physiological Sciences
表紙

2. 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

雑誌のオープンアクセス化を進め、科研費の補助で優秀論文をオープンアクセス化した。このためダウンロード数が、申請前に比べて大きく伸びた。2015年のタイにおけるアジア大洋州生理科学連合大会においてJPSのサプリメント号として抄録発行が決定し、大会本部とともに発刊に向けた準備が進んでいる。また2019年のアジア大洋州生理科学連合大会においても同様に抄録を発行することが検討されている。論文不正防止に対する国際的な対応の一環として、COPE (Committee on Publication Ethics) にメンバーとして参加し、クロスチェックシステムなど、編集段階における不正防止を全投稿論文について導入した。

・今後の計画

雑誌のオープンアクセス化を一層進めることにより、インパクトファクター数およびダウンロード回数の一層の増加を目指す。このために編集体制の定期的な見直しと共に、海外からの投稿を増やし、また外国人編集委員の数を増やしていく。アジア大洋州生理化学連合大会における生理学雑誌としての主要な役割を果たしつつあるが、この関係を一層強化させる。このためにもアジアオセアニアでの交流活動を中心に、これまで関連の乏しかった国の生理学会との交流も強化していく。また国際化のノウハウを国内主要基礎学会と連動して進めるために、解剖学会あるいは薬理学会などとの連携を深めていく。



近年の総説論文サンプル

今後の計画として、このような優秀な総説掲載に力を入れ、海外情報発信力を強化していく。